

しめのひとこと

志免町のいろんなひと、いろんなことをお伝えします！

7

子どもの居場所を作るとは

仲間の大切さ



たなか やすこ
田中 靖子

障がいのある子もいない子も共に演劇を！
劇団きらきら 代表

北海道出身。志免町在住。長女が小学生の時、帰宅後に一人でいることが多く、自身が子どもの頃から親しんできた演劇をしようと思いつく。2人の息子も一緒に母子4人で演劇を始める。活動の場を広げながら、友人たちも加わって、今では青年部と児童部を有し、幅広い世代が関わる劇団となった。



家族で楽しむ劇団から仲間を募って劇団きらきらへ

「劇団きらきら」は、発達障がいのある娘のために家族4人ではじめた演劇が始まりです。

娘が小学生のころ、低学年のうちは友だちと遊んで過ごしていましたが、だんだん仲間に入れなくなって、いつも一人で過ごしていたんです。

そこで、放課後に何かできることはないか考えて、自分がずっと親しんでいた演劇だ！と思いつきました。はじめの頃は自分が関わる団体のイベントなどで劇をして、その後いろいろなところから依頼がきて、公演する機会が増えていきました。

演劇を通じて、お客さんから拍手や反応をもらうと、おとなしかった娘が元気になっていきました。その経験から、これは家族だけではもったいない、大きい舞台にも挑戦したいと思いました。また、多くの団員や公演を支える裏方のスタッフの必要性を感じて、仲間へ声をかけ、子どもたち18人が集まって「劇団きらきら」を立ち上げました。

現在は、児童部と青年部に分かれて総勢40名ほどで、何よりも団員を大切に活動しています。



コロナ禍で活動を休止した一年。弊害と再開後の様子

青年部は毎週金曜の夜、児童部は月に2回、日曜の日に練習しています。公演前は毎週末が練習になります。コロナ禍で、この1年は集まる場所がなくて練習できませんでした。昔は健常児が多かったですが、今は障がい児が多いです。日曜日の活動が慣れているという理由や、障がいの重さもあってずっと児童部にいる人もいます。団員が大人になってその子どもたちも入って、乳幼児が7名います。年齢の幅が広いですね。今も練習には来ていない団員もいます。コロナ禍で会えない時から、もっぱら保護者とのメールでやり取りを続けています。

昨年の秋に、一度は練習を再開しましたが、団員の考え方の違いもあり、来れる人は来て、外出を自粛したい人は無理しないようにと呼びかけました。

昨年度、高校生が新たに児童部に来ましたが、発達障がいがあり、練習がない間に練習場所に行けなくなってしまいました。お母さんと連絡を取ると、今は行く気になっているそうですが、特に新しいメンバーは、人や場所に慣れる前にコロナ禍で会えな



青年部かわいそうなぞう（2019年10月公演）

くなり、気持ちが高まっていない。やる気が失せたり、練習へ行くことができなくなるのはコロナ禍の弊害ですね。練習や公演ができない時もモチベーションが下がらないように時々斉メールを送ったり、少人数で会ったりは、意識して続けました。

私自身が延期のたびに、またできなくなるのではと気になって元気にやれない状態が続いていました。緊急事態宣言が明けたので、3月からまた練習再開です。練習が本格化すると、気持ちも高まってくると思います。みんなの会いたい気持ちや、練習を待ち焦がれる気持ちを感じています。



気になる親同士のつながり 途切れない障がい児支援を求めて

きらきらでは、親たちの絆が深いので、親同士も会いたい気持ちが高まっていると感じています。

親も一緒にスタッフとして活動するため、育児サークルのような側面があるのも特徴です。

志免町では、子育てサークルが減少しています。今の親御さんたちは、子育てで困ったときにどうしているのと気になります。「悩みを話す場はネットなのかな。想像だけで、わからないですが。」

息子たちが小さな時は、みんなで親子サークルを必死で作った感覚がありました、今は、例えばパワフルキッズを卒業した子たちは、どこに行ってるんだろうと考えます。娘の時には、小学生の間は健康課でカウンセリングをしてきていました。

そしてカウンセリングを受けていた人たちが、保健師さんの声かけで集まってできたのが、志免町の障がい児・者団体連絡協議会「こころのまど」加盟団体のツモロ一会です。今も続いています。



志免町で暮らす、障がいのある 子どもたちの将来を考える

娘が中学生になった時は、志免町以外に目を向けて活動していました。娘の通っていた中学校の保護者の会や福岡市の福岡発達障がい者親の会「たけのこの会」等に参加して、親も子どもたくさんの経験ができました。とにかく面白いし、楽しかった。

ですから、今までの経験から、志免に障がいのある子やその親が集えるところや、もっと言えば障がいのある子が働ける場があればよいなと思います。

お給料をいただける、きちんと毎日働ける場を志免町がつくるよ！と言ってくれたらいいな。

さらに言えば、自律した人が暮らせる障がい者のグループホームも、私が10歳ぐらい若かったら、志免でやってみたいと思っていました。だけど、私も年を取って体力がなくなってきた。「きらきら」も私の代で終わりかなと。それでいいと思ってます。

以前は「きらきら」に子どもたちの職場や、グループホームをつくって…と考えていましたが、それをすると劇ができなくなっちゃう。

今はみんなで楽しく劇ができればいいかなと思っています。それで集った「劇団きらきら」の仲間ですから。

まずは6月の公演に向けて練習をしています。



取材を終えて

親子で演劇に参加し、子どもたちの成長と一緒に見守るなかで団員同士が大家族のような関係に変化してきた様子が伝わりました。次回6月に公演予定です。演目は児童部「どうぞのいす」青年部「おおきな木」です。詳細は決まり次第お知らせします。

